

1

東洋紡株式会社

	各社の考え方
① 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none">● 当社グループは、「自社のバリューチェーン全体のGHG排出量を上回る削減貢献量創出の実現」を2050年目標としている。● 目標達成に向け、バリューチェーン全体の排出量を把握し、削減を効率的に進める為に算定結果を活用。
② 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none">● カテゴリーごとの排出量構成比やホットスポット等の把握。● ステークホルダー（お客さま、お取引先さま、業界、地域社会・国等）への開示。● 情報開示によりステークホルダーのニーズへの対応や協働の可能性を検討することで削減を推進。
③ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none">● 各カテゴリの排出量・ホットスポット等を把握することで、効率的な削減を推進。
④ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none">● 各カテゴリの活動量等を当該部門（経理、人事部門等）が集計。● Scope 3 算定部門が全カテゴリのデータを集約し算定。

東洋紡株式会社

	各社の考え方
⑤ サプライチェーン 排出量の削減に 向けて	<ul style="list-style-type: none">● 当社グループではバリューチェーン排出量の削減を目指し、主に下記の排出量削減に取り組んでいる。 [カテゴリ11] 新技術や省エネ技術の導入により製品（装置）使用時のユーティリティ（蒸気、電気等）量を削減。GHG排出量の削減と同時に、環境負荷の低減も進めている。 [カテゴリ1] リサイクル材・バイオマス材等の低炭素原材料の調達とサプライヤーとの連携を強化。また、削減効果が反映される実態に沿ったより精緻な算定法を検討中。 [カテゴリ4] 物流におけるモーダルシフトの推進と積載効率の向上に着手。 [その他] 独自の環境配慮基準を設けた環境配慮製品の開発及び販売を促進。事業所・生産工場での省エネ化と生産効率の向上を推進。
⑥ サプライチェーン 排出量算定の 課題	<ul style="list-style-type: none">● バリューチェーン連携強化による1次データ反映等の算定精度向上。● データ集計・算定の高効率化（DX化等）。
⑦ その他 （任意）	<ul style="list-style-type: none">● 2022年12月、SBT認定取得(Scope1,2,3)

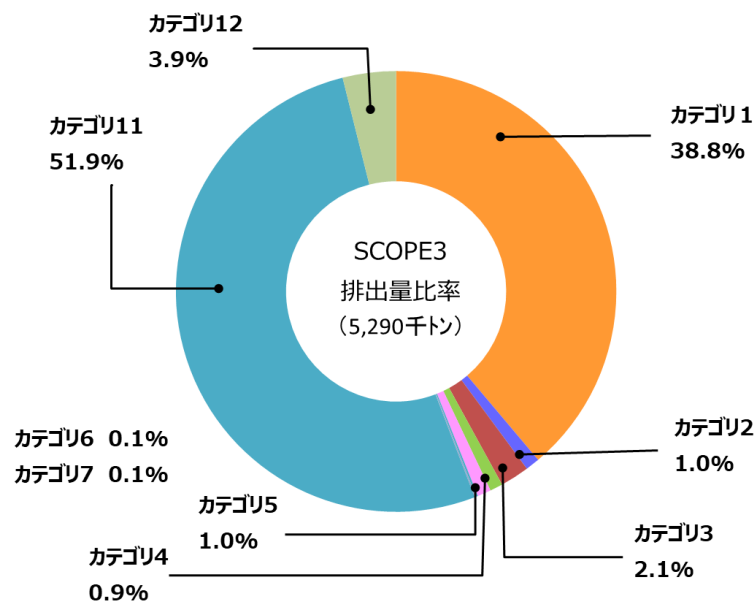
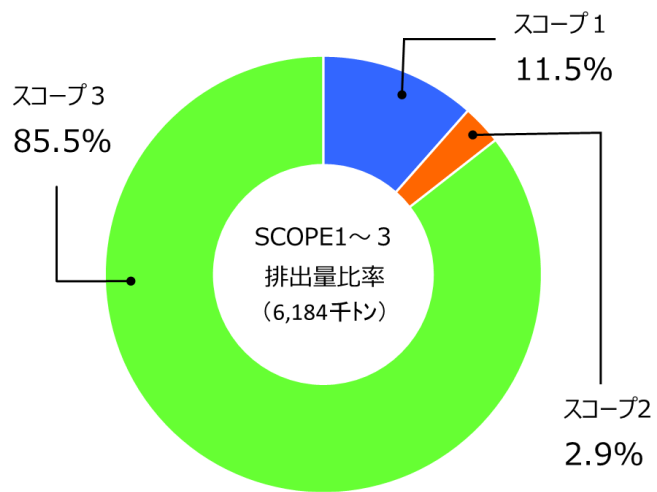
東洋紡株式会社

カテゴリ	算定方法 ※算定対象期間：2022年4月～2023年3月	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 原材料・資材・包装材の調達額	● [5]産業連関表ベースの排出原単位(購入者価格) ^{a)}
カテゴリ2「資本財」	● 投資額	● [6]資本財の価格当たり排出原単位 ^{a)}
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● エネルギー購入量	● IDEA ver2.3 ● [7]電気・熱使用量当たりの排出原単位 ^{a)}
カテゴリ4「輸送、配送（上流）」	● 荷主分の輸送にかかる燃料使用量	● 省エネ法の算定・報告・公表制度における排出係数
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 品目ごとの廃棄物重量	● 焼却、埋立：IDEA ver2.3 ● リサイクル：[8]廃棄物種類・処理方法別排出原単位 ^{a)}
カテゴリ6「出張」	● 移動手段別出張旅費金額	● [11]交通費支給額当たり排出原単位 ^{a)}
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 従業員数	● [14]従業員数・勤務日数当たり排出原単位 ^{a)}
カテゴリ8「リース資産（上流）」	● 該当なし	● -
カテゴリ9「輸送、配送（下流）」	● 算定から除外	● 合理的算定が困難
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 算定から除外	● 合理的算定が困難
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● VOC回収装置の排出量 ● 尿沈渣検査装置の排出量 ● 全自動遺伝子解析装置	● IEA-Emissions Factors ● IDEA ver2.3 ● 各種使用機器の稼働値より算出
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 販売製品重量	● [9]廃棄物種類別の排出原単位 ^{a)}
カテゴリ13「リース資産（下流）」	● 該当なし	● -
カテゴリ14「フランチャイズ」	● 該当なし	● -
カテゴリ15「投資」	● 該当なし	● -
「その他」	● -	● -

a) 環境省「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量算定のための排出原単位データベース（ver.3.3）」

東洋紡株式会社

サプライチェーン排出量算定結果



SCOPE1: 事業者自らによる直接排出
 SCOPE2: 他者から供給された電力・熱・蒸気の使用に伴う間接排出
 SCOPE3: その他間接排出